

今日のキーワード 『桜の開花』と景気の関係

日本気象協会が3月13日に更新した今年の東京の『桜の開花』予想は3月21日です。昨年の3月17日と比べると4日遅いものの、平年（3月26日）より5日早い予想となっています。民間の「ウェザーニュース」も3月21日を予想しています。東京の『桜の開花』が3月21日以前と早い年は過去13回あり、いずれも景気は後退局面にはなりません。景気と密接な関係があるとみられる、今年の『桜の開花』日が注目されます。

ポイント1

東京の『桜の開花』予想は3月21日 平年より5日早い予想

- 日本気象協会は、2019年の『桜の開花』・満開予想を日々更新しています。同協会は北海道から鹿児島までの全国約1,000カ所の桜の名所、及び各都市のソメイヨシノについて、開花・満開予想を行っています。
- それによると、東京では平年より5日早い3月21日に開花し、30日に満開を迎える予想です。非常に早い開花（3月17日）となった昨年からは4日遅れの開花となりそうです。東日本では、昨年の秋から冬にかけて平年より暖かかったため、開花時期が平年より早くなる見込みです。
- 民間の気象情報会社「ウェザーニュース」は3月12日、「桜開花予想」を更新しました。同社の予想でも、東京（靖国神社）の『桜の開花』は、3月21日が見込まれています。

ポイント2

『桜の開花』と景気の関係は密接

- 1953年から実施されている気象庁の生物観測調査で、東京の『桜の開花』が3月21日以前と早い年は過去13回あり、すべて景気の後退局面にはなりません。早く春が訪れると、春物衣料が売れるほか、お花見で人々の気分が高揚することが理由かもしれません。
- 内閣府が3月7日に公表した1月の景気動向指数は、景気の現状を示す一致指数が3カ月連続で低下しました。機械的に決まる基調判断は、「下方への局面変化」に変更され、景気後退の可能性を示唆する表現になりました。足元で景気の拡大が節目にあるとの見方が一部で台頭しています。



今後の展開

春の訪れを感じながら、『桜の開花』日に注目

- 現時点の、東京の『桜の開花』予想は3月21日ですが、予報によると、東京はこの先も晴れる日が多く、気温はこの時期らしい日が続く、極端に寒くなる日はない見込みです。このまま順調に桜のつぼみも膨らんでいきそうです。過去のジンクス通りなら、東京の開花時期が3月21日以前であれば、景気は後退局面ではないこととなります。春の訪れを感じながら、『桜の開花』日に注目したいと思います。

ここも チェック!

2019年3月13日 『街角景気』は現状が3カ月ぶりに改善
2019年3月 4日 『法人企業統計』は10四半期ぶりに経常減益

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。